平成29年８月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第636号

林業福島

No. 636

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

8
2017

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■緑の中のオアシス

林業・木材産業の活性化と木材需要拡大に向けた取組

福島県木材協同組合連合会
会長　朝　田　宗　弘

東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故は、本県林業・木材産業に依然として大きな影響を及ぼしており、樹皮処理や安全・安心な県産材の供給等、本県特有の取組を今後も継続せざるを得ない状況が続いていくものと思われます。

そのような中、福島県では、県産材の需要拡大について、昨年度から引き続き、県産材を活用した木造住宅への二〇万及び三〇万ポイントを付与する「ふくしまの未来を育む森と住まいのポイント事業」に取り組み、県木連としては、最大二〇〇棟の木造住宅建設に向け、ポイント申請や相談窓口として事業の円滑な推進を図っております。さらに、公共施設等への県産材活用に向けては、今年度の重点事業として、設計士や建築士等と連携し、県内市町村への働きかけを行うこととしております。

一方、素材生産については、建築用材の需要減少が予想される中で県内外の木質バイオマス発電施設への燃料チップ供給が本格化し、チップ用材（C材）の動きが活発となってきております。このため、A材からC材までの安定的供給がより一層求められることから、素材生産業者に対し、燃料用チップ用材の搬出運搬経費の支援継続とともに、高性能林業機械導入や若手林業者の育成対策などについて県への支援をお願いしているところであります。

東京電力原子力発電所事故による木材業界に対する放射性物質の影響は、今後も続くものと予想されることから、県木連としては木材と放射性物質に関する各研究機関のデータ収集や分析に努めるとともに、風評被害対策や樹皮の処理対策等、国・県と連携し対応していくこととしております。特に、ふくしま森林再生事業が本格化している中で、原木市場やプレカット工場、さらにはチップ工場等へ段階的に非破壊検査装置の設置を進めるとともに、徐々に住民帰還が進み林業生産活動も再開しつつある相双地域から生産される木材を安心して利活用するためのシステム構築に向けた検討も行う計画でおります。

今後も引き続き、林業・木材産業の活性化と木材需要拡大に向けた取組に努めてまいりますので、皆様のご指導、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

《もくじ》

とびら
林業・木材産業の活性化と木材需要拡大に向けた取組
福島県木材協同組合連合会会長
朝　田　宗　弘…… 1
木製地球儀の県内巡回が始まっています… 2
林業研究センターだより…… 3～4
子どもたちによる未来の森林（もり）づくり… 5
第29回ふくしま緑の百景歩こう会…… 6
「西会津町こゆりこども園」…… 7
普及指導員通信…… 8
林業労働力確保支援センターだより…… 9
林災防だより…… 10
「自然に親しむ」…… 11
木材市況・ふくしま東西南北…… 12
はなしのひろば・お知らせコーナー…… 13

第69回 全国植樹祭 ふくしま 2018
育てよう 希望の森を いのちの森を

木製地球儀の県内巡回が始まっています。

第六九回全国植樹祭福島県実行委員会事務局
（福島県農林水産部全国植樹祭推進室内）

全国植樹祭のシンボルである木製地球儀が、平成二九年五月二八日に開催された第六八回全国植樹祭において、富山県から本県へと引き継がれました。

木製地球儀は、二一世紀最初の全国植樹祭が開催された山梨県（第五二回全国植樹祭）から、開催県に代々引き継がれています。二一世紀は地球環境の時代であり、森林・林業がさらに重要な役割を担うというイメージを「木製の地球」で表現し、それを国民・企業・行政の三者の手で支えていく姿を「三枚の葉」で表現しています。

現在、木製地球儀は、県内の市町村を巡回しており、来年春の全国植樹祭会場である南相馬市まで、県内全市町村を巡回します。

地球：ヒノキ　葉：ナラ　基台：ケヤキ
高さ：60㎝　幅：50㎝　重さ：14.7kg

木製地球儀巡回予定表

市町村名	展示期間	展示場所	市町村名	展示期間	展示場所	市町村名	展示期間	展示場所
県庁	6／12～6／16	県庁西庁舎	天栄村	9／28～10／3	村役場庁舎	西郷村	1／18～1／23	文化センター
福島市	6／16～6／26	市役所本庁舎	会津若松市	10／5～10／16	生涯学習総合センター	泉崎村	1／23～1／26	村役場庁舎
桑折町	6／26～6／29	イコーゼ！（屋内温水プール）	大熊町	10／16～10／19	町役場若松出張所	矢吹町	1／26～1／31	町役場庁舎
国見町	6／29～7／4	町役場庁舎	磐梯町	10／19～10／24	町役場庁舎	中島村	1／31～2／5	生涯学習センター
伊達市	7／4～7／12	市役所梁川庁舎	猪苗代町	10／24～10／27	町役場庁舎	棚倉町	2／5～2／8	町役場庁舎
二本松市	7／12～7／18	市役所本庁舎	北塩原村	10／27～11／1	村役場庁舎	矢祭町	2／8～2／14	もったいない図書館
川俣町	7／18～7／21	町役場庁舎	喜多方市	11／1～11／7	市役所本庁舎	塙町	2／14～2／19	道の駅はなわ
大玉村	7／21～7／31	フォレストパーク	湯川村	11／7～11／10	村役場庁舎	鮫川村	2／19～2／22	村役場庁舎
本宮市	7／31～8／3	えぽか	会津坂下町	11／10～11／15	中央公民館	いわき市	2／26～3／1	市役所本庁舎
郡山市	8／7～8／16	市役所本庁舎	会津美里町	11／15～11／20	町役場本郷庁舎	双葉町	3／1～3／3	町役場いわき事務所
三春町	8／16～8／21	三春交流館まほら	柳津町	11／20～11／24	町役場庁舎	広野町	3／8～3／13	町役場庁舎
田村市	8／21～8／24	市役所本庁舎	西会津町	11／24～11／29	道の駅「よりっせ」	富岡町	3／13～3／16	町役場庁舎
小野町	8／24～8／29	ふるさと文化の館	三島町	11／29～12／4	町役場庁舎	楢葉町	3／16～3／22	町役場庁舎
平田村	8／29～9／1	村役場庁舎	昭和村	12／4～12／7	公民館	川内村	3／22～3／27	村役場庁舎
古殿町	9／1～9／6	町役場庁舎	金山町	12／7～12／12	町役場庁舎	葛尾村	3／27～3／30	村役場庁舎
石川町	9／6～9／11	町役場庁舎	南会津町	12／14～12／19	町役場庁舎又は御蔵入交流館	浪江町	3／30～4／4	町役場庁舎
浅川町	9／11～9／14	町役場庁舎	檜枝岐村	12／19～12／22	尾瀬・檜枝岐山旅案内所	飯舘村	4／4～4／9	村役場庁舎
玉川村	9／14～9／20	村役場庁舎	只見町	12／22～12／27	朝日振興センター	相馬市	4／9～4／12	市役所本庁舎
鏡石町	9／20～9／25	町役場庁舎	下郷町	1／4～1／10	町役場庁舎	新地町	4／12～4／17	町役場庁舎
須賀川市	9／25～9／28	市役所本庁舎	白河市	1／10～1／18	市役所本庁舎	南相馬市	4／17～4／25	市役所本庁舎

林業研究センターだより

「森林施業に伴う放射線量率と林床上の放射性セシウムの推移について」

木材チップ敷設施業地

福島県林業研究センター
森林環境部 主任研究員
髙　信　則　男

1　はじめに

原発事故の影響により、県内の森林は林業生産の場としての森林機能の回復が急がれています。森林における放射性物質や空間放射線量率（以下、「空間線量率」という。）を低減させるためには、落葉層の除去が最も即効かつ有効な方法とされています。

今回は、森林施業に伴う放射線量率と林床上の放射性セシウムの推移について、間伐等の森林施業を実施した箇所の森林施業前と施業後の空間線量率（平成二四～二五年度施業地）と林床の放射性セシウム濃度（平成二六年度施業地）の経年変化を調査しましたのでお知らせします。

2　調査内容等

⑴　空間線量率の経年変化

スギ、ヒノキ、アカマツ林内に設定した各試験地とも森林施業地の中央において十字に調査プロット（四〇メートル×四〇メートル）を設け、中心の一点と中心から各方向二〇メートル地点四点の間に合計五点の定点において遮蔽台を用い、地上高一メートルにおける森林施業前と施業後の下方向（樹冠側から）、上方向（地表側から）および全方向の空間線量率を測定（図―1～3）しました。[1)]

⑵　林床の放射性セシウム濃度の経年変化

①　林床堆積物の調査

空間線量率の測定点五点と更に中心から四点の間に中間点を一点ずつ計九点の林床堆積物（Ao層・〇～五センチメートル層）を採取（図―2・4）し、セシウム137濃度の経年変化を調査しました。

②チップ被覆効果調査

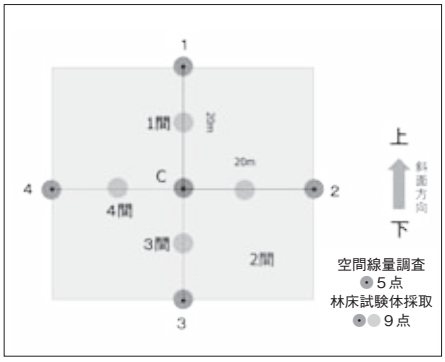
①のアカマツ林施業地に設定したチップ被覆試験区において、プロット内のチップ層（積層厚約一〇センチメートル）を採取し、セシウム137濃度を測定しました。なお、採取方法は林床堆積物の調査と同様としました。また、同試験区からも、林床堆積物（Ao層〇～五センチメートル層）を採取しセシウム137濃度及び空間線量率の経年変化を測定しています。

3　結果及び考察

⑴　空間線量率の経年変化

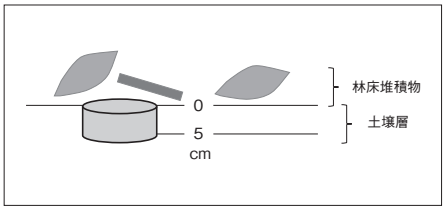
森林施業前と直後の空間線量率を比較すると、伐採により林冠枝葉が除去され、樹冠方向からの線量は減少しましたが、林床堆積物は残っているため、地表方向からの空間線量率は増加しています。なお、伐採に加えて枝葉落葉を除去した場合は地

図―１　空間線量測定機材



図―２　プロット配置図

図―３　空間線量測定方法



図―４　採土円柱を用いた土壌試料の採取要領

表方向からの線量率も減少したため、全方向の線量率も減少したと考えられました。しかし、平成二八年度の空間線量率については、いずれの施業地でも自然減衰率に則して推移していると考えられました。（表―1　表―2）。

表－１　施業方法別空間線量率の推移（スギ林・H24～25年度施業）

	切捨間伐(伐採率30%)			利用間伐(伐採率35%)			皆伐		
	全方向	下方向	上方向	全方向	下方向	上方向	全方向	下方向	上方向
施業前 μSv/h(a)	1.56	0.55	1.03	0.65	0.28	0.44	0.44	0.16	0.27
施業後 μSv/h(b)	1.46	0.52	1.05	0.62	0.22	0.47	0.39	0.10	0.33
(b/a%)	(−6.3%*)	(−4.7%n.s.)	(1.1%n.s)	(−4.7%n.s.)	(−21.9%*)	(7.3%n.s.)	(−12.0%n.s.)	(−40.2%*)	(18.6%n.s.)
H26 μSv/h	1.33	0.41	1.02	0.58	0.19	0.44	0.35	0.10	0.29
H27 μSv/h	1.23	0.34	0.97	0.59	0.19	0.47	0.38	0.12	0.31
H28 μSv/h(c)	1.19	0.32	0.98	0.62	0.22	0.50	0.35	0.10	0.30
(c/a%)	(−23.7%*)	(−41.8%*)	(−4.9%n.s.)	(−4.6%n.s.)	(−21.4%*)	(13.6%n.s.)	(−20.5%n.s.)	(−37.5%*)	(11.1%n.s.)

注1）　*は平均値に有意差があることを示し、n.s.は有意差がないことを示す(P<0.05)
注2）　下方向とは樹冠側からの放射線量を測定した値を示す、上方向とは地表側からの放射線量を測定した値を示す

表－２　施業方法別空間線量率の推移（コナラ林・H24～25年度施業）

	更新伐(伐採率90%)			更新伐(伐採率90%・枝葉落葉除去)		
	全方向	下方向	上方向	全方向	下方向	上方向
施業前 μSv/h(a)	0.59	0.18	0.43	0.61	0.18	0.46
施業後 μSv/h(b)	0.56	0.16	0.47	0.43	0.12	0.34
(b/a%)	(−4.4%n.s.)	(−8.0%*)	(8.3%n.s)	(−29.3%*)	(−31.6%*)	(−25.8%*)
H26 μSv/h	0.56	0.19	0.44	0.39	0.12	0.29
H27 μSv/h	0.56	0.19	0.45	0.37	0.14	0.26
H28 μSv/h(c)	0.51	0.19	0.45	0.36	0.13	0.33
(c/a%)	(−13.6%n.s.)	(9.9%n.s.)	(4.7%n.s.)	(−41.0%*)	(−27.8%*)	(−28.3%*)

注）　*は平均値に有意差があることを示し、n.s.は有意差がないことを示す(P<0.05)
※表１～２については、施業後以降の空間線量率は施業前の測定日として減衰率補正した値である。

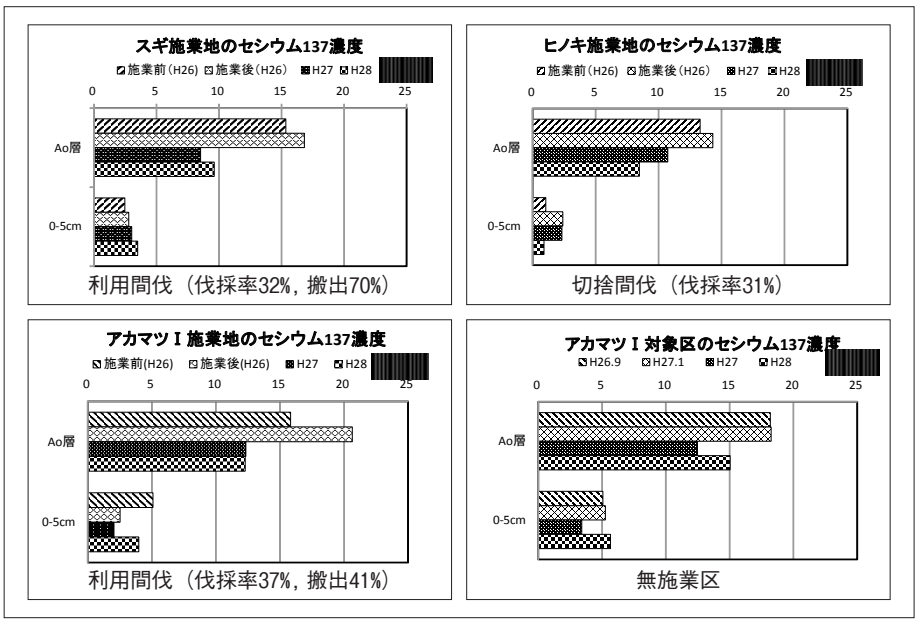
各区の施業実施期間

施業種	実施年月
切捨間伐(伐採率30%)	H24.11～H24.12
利用間伐(伐採率35%)	H24.12～H25.3
皆伐	H24.12～H25.3
更新伐(伐採率90%)	H24.11～H25.7
更新伐(伐採率90%・枝葉落葉除去)	H24.11～H25.7

(2)　林床の放射性セシウム濃度の経年変化

①　堆積有機物（Ao層）のセシウム137濃度は、全体的には施業前から施業後に一時増加し、その後減少傾向で推移しました。また、土壌（〇～五センチメートル）については、ヒノキ施業地では減少傾向にあり、その他の施業地については、漸増傾向となりました（図―5）。

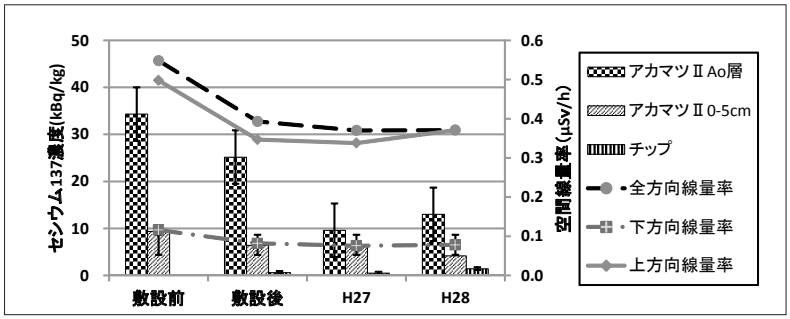
これについては、ヒノキ林においては、他の樹種と比べてAo層の堆積物が比較的少ないため、土壌へのセシウムの移行が進むとともに、〇～五センチメートル層に含まれていたセシウムがそれ以上の深度に移行したものと考えられました。



図－５　施業毎の堆積有機物（Ao層）と土壌（０～５㎝）中のセシウム137濃度の推移

②　チップ敷設調査地の林床のセシウム137濃度と空間線量率との関係については、チップ敷設後に樹冠、地表及び全方向ともに、空間線量率が減少しました。これは、チップ敷設による被覆効果が考えられましたが、平成二八年度の測定では、敷設チップのセシウム137濃度、上方向の空間線量率ともに微増しました。（図―6）

これについては、チップ被覆後、時間の経過により、落葉による堆積有機物等に含まれるセシウムの動き等が影響していると考えられますが、引続き調査を継続することとしています。



図－６　チップ敷設に伴うセシウム137濃度と空間線量率の推移

4　おわりに

今回の結果については、地形、樹種やこれまでの森林施業実施状況等で大きく左右され、また、空間線量率も場所によって大きく異なることから、多様な森林整備に伴う一つの事例として考えるべきものであります。

1）大谷義一ら（二〇一三）森林域における除染効果確認のための上下方向別空間線量率測定、関東森林研究、六四

子どもたちによる未来の森林（もり）づくり

福島県相双農林事務所富岡林業指導所

記念撮影

子どもたちによる未来の森林（もり）づくりが六月十八日、双葉郡楢葉町大字山田浜の海岸防災林造成地で行われました。

来春に南相馬市で開かれる「第六九回全国植樹祭」のプレイベントとなる植樹祭で、双葉郡内の親子等一四〇名が参加して行われました。

主催者である芳見相双農林事務所長、地元の松本楢葉町長のあいさつの後、「森林（もり）とのきずなづくり植樹リレー」のプレートとバトンを楢葉町立楢葉北小学校の立花克磨君、齋藤遙人君が代表して引き継ぎました。

この後、参加者全員で植樹会場に移動して、抵抗性クロマツ苗五〇〇本を植樹しました。

閉会式では、楢葉町立楢葉北小学校の木村遥人君と田中創君が「ちかいのことば」を述べた後、植樹リレーのプレートに木ピンをさして、次回植樹祭開催地へと引き継ぎました。

一人ひとりが思いを込めて植樹した苗木が大きく成長し、海岸防災林として、その役目を果たすことを願っております。

植樹活動

森林（もり）とのきずなづくり植樹リレー

第二九回ふくしま緑の百景歩こう会

公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局

テープカット

太鼓演奏
（飯坂八幡神社祭り太鼓保存会）

ウォーキングスタート

平成二九年六月四日（日）、福島市飯坂町において、第二九回ふくしま緑の百景歩こう会を福島市、福島民報社、（公社）福島県森林・林業・緑化協会でつくる実行委員会の主催で福島市市制施行一一〇周年記念事業として開催しました。

「ふくしま緑の百景歩こう会」は、一九八五年（昭和六〇年）国際森林年を記念し、福島民報社との共催により県民の一般投票で「ふくしま緑の百景」を選定し、平成元年よりこの緑の百景を核としたコースを設定し、福島民報社、緑の百景の地元市町村との共催で開催しています。

今回は、福島市飯坂支所をスタート、すりかみ浄水場前広場をフィニッシュとする特設コース（約八キロの入門コース（ひめさゆりの丘）と約一一キロの満喫コース（大作山山頂）の二コース）で実施し、参加者約一、〇〇〇人が緑の百景に選ばれている大鳥城跡の緑など豊かな自然を眺めながら、天王寺沼や大作山をウォーキングして楽しみました。

大会受付ではミスピーチが参加者へJAふくしま未来オリジナルジュースを配布したり、開会式では地元飯坂八幡神社祭り太鼓保存会による太鼓演奏や福島市のシンガーソングライターMANAMIさんによるミニライブがあったり、各チェックポイントでは福島市の水道水「ふくしまの水」の配布、豚汁や飯坂名産「ラジウム玉子」を振る舞ったりするなど、ウォーキング以外でも福島市を一日を通して楽しめるようなプログラムで参加者をもてなしました。

フィニッシュ会場では、参加申込抽選プレゼント当選者の発表や、大会当日に配布したコースマップに記載した番号の抽選プレゼントの配布を行い、当選した参加者は、飯坂温泉旅館の宿泊クーポン券やももりんサブレーなど地元ゆかりの景品や緑化用苗木（カルミア、ヨドガワツツジ、シモツケ）を受け取り、それぞれの帰路につきました。

初夏の日差しや風を感じながら歩く参加者

西会津町こゆりこども園

西会津町健康福祉課

1．はじめに

西会津町では、少子化や多様化する保育ニーズへの対応、老朽化した施設への不安を解消するため、町内全ての保育所（三保育所・一分所）を統合し、保育所型の認定こども園を建設しました。認定こども園は、保育施設としての機能の他に、放課後児童クラブや子育て支援センターの機能を備えており、町の子育て支援の拠点施設として位置付けられています。

また、先に町内で一つに統合した小学校、中学校が隣接しており、今後は、それぞれが連携しながら、子育て支援や教育の一層の充実を図っていきます。

2．建築概要

- 建物名称：西会津町こゆりこども園
- 発注者：西会津町長
- 所在地：耶麻郡西会津町尾野本字新森野五三番地
- 設計管理：有限会社辺見美津男設計室
- 施工：武田土建工業株式会社
- 規模：
  - 構造　木造平屋建て（準耐火構造）
  - 建築面積　一、八九八平方メートル
  - 延床面積　一、七九三平方メートル
  - 竣工　平成二九年三月
- 概要：
  - 内部
    - 床：無垢杉板張ｔ＝一五ミリ（自然塗装二回）
    - 壁：杉板張ｔ＝一二ミリ（自然塗装二回）
  - 空調
    - 暖房：木質ペレットボイラー（灯油予備）、床暖房・床噴出し暖房
    - 冷房：壁掛け型エアコン（各室）、床噴出し冷房

3．木材の利用

認定こども園の設置にあたり、西会津町保育施設整備等審議会からの答申において「木のぬくもりを重視した温かみのある施設として整備が望まれる」とのことから、構造は木造とし、その建築資材については、できる限り地元産材を活用することとしました。これにより、町内から約二三〇立方メートルの杉材が寄贈され、その他の木質材についても県産材を使用しています。柱には地元産の杉の丸太材をそのまま利用し、床は杉材のフローリング、屋根部分には木材でのトラス構造により、高くて広い空間でも強い強度を確保しています。

また、厳しい冬の施設内暖房や屋根融雪設備の燃料として、木質バイオマスエネルギーである木質ペレットボイラーを導入し、豊かな森林資源の有効活用と森林環境の保全や再生など、循環型のエネルギー利用を目指しています。

4．おわりに

県内でも有数の豊かな森林資源を有している本町では、公共施設等において木質材料を積極的に利用し、身近に木の存在を感じることにより、森林環境保全の意識の醸成を図っています。

遊戯室

でん（各保育室）

地域土間と奥まで続く光のアーケード

全景

保育室を貫く廊下には丸太の柱が並ぶ

普及指導員通信

森林資源の有効活用と森林整備の推進に係る広報活動について

県南農林事務所森林林業部
林業普及指導員　宗　方　宏　幸

東日本大震災から６年５か月が経過していますが、震災後、停滞した森林整備を促進するため創設した「ふくしま森林再生事業」の取組もあり、県南地方における平成27年度末の森林整備面積は、震災前の７割まで回復している中、県南地方の森林資源は、人工林率が48％と高く、利用伐期とされる10齢級以上の針葉樹人工林が７割を占めており、充実する森林資源を積極的に活用する時期が到来しています。

さらに伐採後は、齢級構成を平準化し、森林の若返りを図りながら、次の世代に健全な森林を引き継いで行く時期にさしかかっており、「伐って、使って、植える」という資源循環や持続可能な森林資源を保続する上で、重要な局面を迎えています。

しかしながら、森林所有者の森林に対する関心は低く、これまで間伐等の保育を行ってきた森林ですら、素材生産を行おうとしない傾向があります。

このため、県南普及地区では、平成28年度末に森林資源の有効活用の呼びかけ等の広報活動を関係機関と連携しながら実施しています。

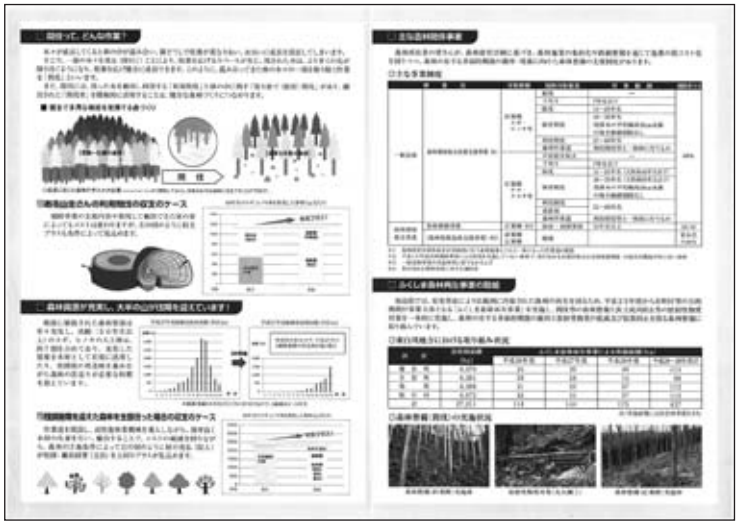
広報活動は、地域の森林整備の方針（市町村森林整備計画）に基づき、公益的機能の維持増進を図りながら、森林整備を推進している市町村、森林整備の中核的な事業体である森林組合、流域全体の森林・林業の活性化を図る流域林業活性化センターの３つの機関と連携しながら、それぞれの媒体（広報誌、定期だより等）により、森林所有者への呼びかけを行いました。

市町村や森林組合へは、森林所有者へ森林を見つめ直し、森林整備の推進を呼びかける広報記事の掲載を依頼しました。

また、奥久慈流域林業活性化センターへは、「活性化センターだより（東白川郡４町村全戸配布）」の発行に当たり、森林所有者や地域住民に対して、伐採時期を迎えている森林を積極的に利用して山から収益をあげるため、補助事業等を活用した利用間伐や皆伐の収支事例や主な造林補助事業内容、ふくしま森林再生事業の取組を紹介する特集記事の掲載を依頼しました。

その結果、森林整備の推進を特集とした「活性化センターだより24号」が全戸（9,800世帯）に配布されたほか、３市村、１森林組合で広報誌に掲載され、農林事務所へも森林整備に関する問い合わせが寄せられています。

今後とも県南地方の豊かな森林資源を有効活用し、元気な森林を未来に残すため、森林所有者が森林を見直す機会となるよう、定期的に広報活動を展開していきたいと考えております。



奥久慈流域林業活性化センターだより24号「森林整備の推進」

福島県林業労働力確保支援センターだより

林業就業者育成の取組について

林業人材育成研修
先崎講師の伐根

◎はじめに

福島県林業労働力確保支援センター（以下「支援センター」という。）では、林業の持続的かつ健全な発展のため、事業体の雇用管理体制改善や林業の担い手確保・育成等のための各種事業を行っています。

ここでは、今年度これまでに取り組んだ研修について紹介します。

◎「緑の雇用」現場技能者育成推進事業（フォレストワーカー研修）

認定林業事業体の新規就業者を対象とし、三年間で体系的に技能と知識の習得が得られるよう全国統一のカリキュラムのもと、集合研修と実地（ＯＪＴ）研修を実施中です。

今年度の研修生は、一年生が四二名、二年生が三四名、三年生が二六名の計一〇二名となっていて、前年度同時期（七八名）より増加しています。

①指導員能力向上研修

「緑の雇用」を行う事業体を対象に、実地（ＯＪＴ）研修を行う際の指導員に新たになる方を対象に、指導員の役割や指導方法などを中心に五月三一日から六月二日までの三日間、「フォレストパークあだたら」で実施し、三一名の方が指導員となりました。

②集合研修

集合研修は、各年の研修生が一箇所に集合し座学や実習、資格取得を行うものです。

今年度のカリキュラムは、一年生二八日間、二年生二九日間、三年生二一日間になっています。

六月五日から七月八日までに行った主な集合研修の内容は、一年生では、林業の社会的責任と関係者との協働の講義・刈払機・チェーンソーの特別教育やメンテナンス・造林育林・健康管理・森林調査・コンパス測量等です。

二年生は造林・刈払機やチェーンソーのメンテナンス・車両系木材伐出機械特別教育の学科・森林調査、三年生では車両系木材伐出機械特別教育です。

集合研修：
フォレストワーカー１年生
刈払機メンテナンス実習状況

現地でチェーンソー伐倒を指導する
小田桐師範

③実地（ＯＪＴ）研修

事業体が行う研修で、六月一日からスタートしています。

今年度から研修期間の月数が変わり、一年生から三年生まで同じになり、最大八ヶ月になっています。

◎林業就業者キャリア形成支援事業

林業就業者の定着促進するためキャリア形成に必要な知識を習得する研修として「林業人材育成研修会」を、六月二三日に古殿町役場大会議室と同町の現地をお借りして安全なチェーンソー伐倒について、林材業安全技能師範の小田桐久一郎氏から講義と実技を行いました。参加者は二三名でした。

同じく「林業人材育成研修会」を、六月二六日にフォレストパークあだたらにおいて、先崎倫正氏から「世界伐木チャンピオンシップに出場して」の講演をいただくとともに、競技のデモンストレーション、伐倒実技の講習を行いました。参加者は二六名でした。

枝払い競技のデモンストレーションを行う先崎講師

現場実習で伐倒方向を狙う先崎講師

これらの研修では、チェーンソー伐倒に関する内容でしたが、講師の伐倒木はいずれも狙った場所に木が倒れ、伐倒技術の高さに拍手を受けていました。

◎終わりに

支援センターでは、今後も様々な研修を予定しており、逐次広報を行いますので、ご活用をお願いします。

林災防だより

林材業・木材製造業労災防止協会　福島県支部

日頃より、当協会の運営・活動にご協力をいただきありがとうございます。

皆様は労働災害防止に関する第一二次労働災害防止計画をご存じでしょうか？「第一二次」からわかるように五年を計画期間として「一二回策定」されています。ということは、六〇年前の昭和三〇年代に厚生労働省が労働災害をなくす目的で全産業に呼びかけを始めた計画なのです。当然、林業・木材製造業も例外ではありません。今年は第一二次労働災害防止計画の最終年度で、平成二四年度の労働災害件数の一五パーセント減を目標達成するべき年となっています。

福島県内の平成二八年度の林業・木材製造業の労災事故発生件数は、下表のとおりで林業が目標件数を大幅に上回っておりますので、日頃から安全作業を心掛けて、これからの半年は「労災事故ゼロ」でお願いします。

そのために、林災防福島県支部では林業・木材製造業ごとに「リスクアセスメント集団指導会」を一〇月～十二月に開催しますので、事業主・安全衛生推進者等の参加をお待ちしております。

計画に対する労災事故発生件数

	計画基準（平成24年）	平成29年目標値	平成28年発生件数
林業（死亡者数）	29	24	45
	1	0	1
木材製造業（死亡者数）	45	38	33
	0	0	0

また、七月～九月に行う刈払機による下刈り作業では、毎年蜂刺されによる被害が発生しています。体質によっては死に至るケースもあることから、作業者は蜂刺され予防対策として蜂アレルギー抗体検査（血液検査）を受診し、陽性と判定された方はエピペンを携行することが肝要です。林業事業体に所属する作業者が受診した場合には、検査料に対する補助があります。さらに、チェンソー・刈払機の振動工具取扱作業者に対する振動障害予防のための特殊健康診断についても、同様な補助制度があり、毎年十一月から十二月に県内九地区において巡回による振動障害特殊健康診断が実施されますので、受診を希望される事業者（一人親方を含む）は当支部へお問い合わせください。

なお、木材製造業の「リスクアセスメント集団指導会」は、二、三社が合同で実施を希望される場合には、個別指導にも応じますのでお問い合わせください。

平成28年度林業事業体のリスクアセスメント集団指導会

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 ―29―

大聖寺のアカガシ樹群

樹木医　鈴木俊行

「大聖寺のアカガシ樹群」は、双葉郡浪江町北幾世橋地内にある大聖寺境内に生育している。生育地の大聖寺は、国道六号と国道一一四号との交差点を海側へ約一・五キロメートル、浪江町役場からは東へ約一・五キロメートルの高台に位置している。生育地の地形は、南から西向きの斜面で、一部に緩傾斜もあるがほとんどが急傾斜となっている。樹林の植生は、アカガシの外にケヤキ、エノキ、エドヒガン、モウソウチクなども生育しているが、林床は除染により裸地化している。また、モウソウチクの繁茂が著しくアカガシの生育をおびやかすほどである。

大聖寺は、平安時代会津恵日寺の徳一大師による創建と伝えられている。この地は、元禄十四年（一七〇一）相馬中村藩五代藩主相馬昌胤（まさたね）が三七歳で家督を叙胤（のぶたね）に譲り、隠居所である北原御殿を設け没するまで住んだ場所である。その後、興仁寺の所有となったが、興仁寺が相馬市に移り、明治三年（一八七〇）に現在の大聖寺が建立された。

このアカガシ樹群は、相馬昌胤が植えたものとも、昌胤の隠居所建設時には既にあったとも伝えられているが定かではない。

アカガシ（Quercus acuta）は、ブナ科コナラ属の常緑高木で、本州の宮城県、新潟県以西から四国、九州、朝鮮半島南部、中国、台湾に分布している。別名オオガシ（大樫）、オオバガシ（大葉樫）と呼ばれ、他のカシ類に比べ、扁平で厚みのある葉が特徴である。和名のアカガシは材が赤いことから付けられ、材は堅くて器具、車両、船舶、機器、枕木、木刀などのほか建築材としても使われる。私はアカガシの堅果（ドングリ）が好きで、特に殻斗がビロードのような手触りと形で何とも言えない。堅果は二年かけて成熟する。

本樹群は現地の解説板によると、四三本生育していて、胸高直径四〇センチメートル以上のものが三九本、胸高直径二五～三五センチメートルのものが四本ある。最大のものは一八八センチメートルで、次いで一七六センチメートルの巨木がある。このようなアカガシの巨木は珍しく、単木としても貴重であるが、一ヶ所にアカガシの巨木が多く生育し、ほぼ自然の状態を保っていることが価値が高い。樹齢は二五〇～四〇〇年とも四〇〇～五〇〇年ともいわれ、昭和五〇年五月三日に県の天然記念物に指定されている。

このアカガシ樹群は、大正の初め頃までは枝渡りができるほど繁茂していたと言われ、大正十年（一九二一）の幾世橋の大火で類焼したが、奇跡的に回復している。天然分布では、北限に近い場所に生育するアカガシの巨木群にぜひ一度会いに行ってはいかがだろうか。きっと大きなパワーを感じることができるはずだ。

アカガシ樹群のある浪江町は、東日本大震災に伴う原発事故の影響により、立入が制限されている場所もあるのでお出かけの際はご注意を。

木材市況

四月の原木市場への入荷状況は、前月比八パーセント減（前年比一〇パーセント増）の二九、三四一立方メートルとなっている。

販売量は、前月比九パーセント減（前年比八パーセント増）の二八、〇六一立方メートルとなっている。

五月の価格は保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（５月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	9（8～10）	0	（0～0）		9（9～9）	0	9（8～10）	0
		10～14		並		11（11～12）	△1	9（9～9）	△1	11（11～11）	0	11（9～12）	0
	中	14～22	3.00	並	スギ	12（11～13）	0	（0～0）		10（9～12）	0	11（9～13）	0
				並	ヒノキ	18（13～24）	0	（0～0）		14（13～15）	△1	16（13～24）	0
			6.00	並	スギ	16（15～17）	0	11（10～12）	1	15（13～17）	△2	14（10～17）	△1
				並	ヒノキ	29（24～34）	0	（0～0）		21（19～24）	2	25（19～34）	1
		20～28	3.65	並	スギ	11（11～12）	0	10（10～11）	0	15（11～19）	3	12（10～19）	1
			4.00	並		11（10～13）	0	11（11～11）	0	11（10～12）	△1	11（10～13）	△1
			4.00	並	アカマツ	9（8～11）	1	（0～0）		9（9～10）	0	9（8～11）	0
			1.80	並		8（5～10）	0	（0～0）		7（6～7）	0	7（5～10）	0
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	（0～0）		（0～0）		28（28～28）	0	28（28～28）	0
				並	米マツ	32（32～32）	0	32（32～32）		29（28～29）	0	30（28～32）	0
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	（0～0）		（0～0）		28（27～28）	0	28（27～28）	0
			4.00	並	アカマツ	（0～0）		（0～0）		33（25～40）	0	33（25～40）	0
				並	カラマツ	（0～0）		（0～0）		26（25～27）	0	26（25～27）	0
パルプ用材				並	マツ	6（6～6）	0	（0～0）		5（5～5）	0	6（5～6）	0
				並	広葉樹	9（9～9）	0	（0～0）		6（6～6）	0	8（6～9）	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	（0～0）		7（6～9）	0
	13～14		並	カラマツ	（0～0）		8（7～8）	0
	16以上		並	カラマツ	13（12～13）		10（9～11）	0

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

「相馬野馬追」について

相双農林事務所　野村智宏

今年度、七月二九日～三一日にかけて行われます「相馬野馬追」について、私自身、なんとなく知ってはいたものの、これまで見る機会がなく、その詳細については、ほとんど知らなかったという、お恥ずかしい状況であり、今回、「相馬野馬追」について、あらためて調べてみました。

相馬氏の祖である平将門が、軍事訓練として、原野に放した野馬を捕らえ、神前に奉納したことに由来し、一千年余りの歴史を有するとのこと。五、〇〇〇騎余りの甲冑姿の騎馬武者が、馬を走らせ競い合う戦国時代さながらの壮大な祭事ということで、昭和五三年に国指定重要無形民俗文化財として指定されています。これまで、七月二三日～二五日に行われてきましたが、平成二四年から七月最終の土、日、月曜に開催日が変更されています。

「相馬野馬追」は、相馬中村神社（相馬市）・相馬太田神社（南相馬市原町区）・相馬小高神社（南相馬市小高区）の三つの神社の祭礼として、雲雀ヶ原祭場を中心に旧中村藩各地で開催され、お繰り出し、御行列、甲冑競馬、神旗争奪戦、野馬懸などが行われます。

特に、なじみのある行事といえば、二日目に雲雀ヶ原で行われる、甲冑競馬、神旗争奪戦、三日目に相馬小高神社で行われる野馬懸です。

○甲冑競馬

一周一、〇〇〇メートルのコースを十二馬立てて走ります。騎乗する武者の背中には旗指物をさし、それがなびき一層スピード感を盛り上げます。

○神旗争奪戦

雲雀ヶ原に集結した数百騎の騎馬武者が、花火の中に仕掛けられた御神旗を怒濤のごとく奪い合うというもので、二〇発の花火が次々に打ち上げられ、御神旗を奪う様は、まさに戦国時代を彷彿とさせます。

○野馬懸

相馬小高神社で、野生馬に見立てた裸馬を数十人の白衣装の若者たちが素手で捕まえ、それを小高神社に奉納します。

私も、まだ拝見していませんが、相双管内に在職中に一度は、見たいと思っています。この原稿が掲載される頃には、すでに終わっていますが、来年、皆様もぜひ見に来てください。

はなしのひろば

追　慕

六月に円蔵院八幡寺（福島市）でおこなった両親の法要の席で、住職がこんなお話をされた。「あの世で亡くなった人達が集まって食事をする時、目の前には沢山の御馳走と一㍍の箸がおかれている。とても長くて隣の人とぶつかり一向に食べられない。一方のグループは、向かい合わせの人同士、一㍍の箸でお互いの口に運んであげてご馳走を食べることができるという。この工夫と思いやりのある優しい人達が極楽浄土にいる人達だ」と。これは、極楽と地獄の話だが、私達の日常生活にも通用するたとえで、宗派を超えて、生きることはまさに修業だと思わせられる。

この「極楽浄土」は、仏教における修行者菩薩が住むといわれ、欲望や苦しみのない清らかな死後の世界だが、現世でも人々は極楽浄土を求め、その美の世界を創り続けている。その中の一つに庭がある。「庭師は、神が宿るという水と石と緑を組み合わせて、浄土に行ったことはないが、これが浄土だと思いを込め、心地よい場を創り続けている。」（６３４デザイン事務所・佐藤勇武氏談）なるほど、浄土式庭園と向き合っていると、庭も静かに自分を見ているような不思議な気持ちになる。

この八月は、御霊に手を合わせ祀ることが多くなる祈りと感謝の月。広島・長崎原爆忌、終戦記念日、お盆そして二三日は、飯盛山で白虎隊二〇人が自刃した日である。

まだまだ暑さは残るが、空に晩夏と初秋の重なりを感じ、夜の風にも初秋の気配を感じる。その微かな移ろいが、人の心を捉える。と、その瞬間、ふと亡き人を思い出し、無性に話をしてみたくなる。（都）

表紙の写真

「緑の中のオアシス」

第31回ふくしま緑の写真コンクール金賞
受賞者　清野欣子さん（福島市）
撮影場所：福島市

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　水戸典明
陽光社印刷株式会社
（定価　一〇八円）

お知らせコーナー

第２回福島県 きのこ料理コンクール　作品募集

きのこに対する正しい知識とその利活用の普及啓発に向け、県産きのこを用いたご自慢の一品を募集しています。

１．応募資格
16歳以上または高校生以上で、県内在住の方
応募は、個人（グループの場合は代表者）に限ることとし、一人１作品

２．応募条件
・福島県内で生産されたきのこを使用している未発表作品
・材料費は、４人分で2,000円以内　など

３．日　程
応募締切
平成29年９月29日㈮（必着）
本 審 査（調理審査）
期日　平成29年11月23日㈭
場所　郡山市安積町「郡山市安積総合学習センター」

４．全国大会
最優秀作品は、全国大会へ県代表として出場

５．お問い合わせ先
公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
きのこ振興センター（TEL 024－947－2188）

第32回ふくしま 緑の写真コンクール　作品募集

緑の大切さを再認識していただくため、「緑の百景」を中心に、身近にある「鎮守の森」や「公園」など、豊かな緑を題材とした作品を募集しています。

１．応募資格
県内の居住者（職業写真家を除く。）とし、作品は自作に限ります。

２．作　品
カラープリント（デジタル可）四ツ切サイズの一枚写真（ワイドも可）
ただし、スライドや組み写真は除きます。

３．応募方法
所定の応募票に必要事項を記入し、提出してください。

４．応募締切
平成29年10月20日㈮（必着）

５．お問い合わせ先
福島民報社事業局（TEL 024－531－4171）
公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
緑化推進局（TEL 024－521－1480）

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹

または最寄りの森林組合

林業福島 八月号 通巻第六三六号
昭和四十二年二月二十四日第三種郵便物認可
平成二十九年八月一日発行（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 水戸 典明
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一〇八円
年間購読料一、九〇〇円（税・送料込）

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCC GROUP

自然との調和

私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る
ヤシマレント

ヤマビル対策に
マリックスター（駆除剤）

蜂さされ防止
ハチノックL（巣退治）
ハチノックS（携帯用）

タケを駆除する
クロレートS

大切な日本の松を守る 住化グリーンの林業薬剤
ヤシマスミパイン乳剤
ヤシマスミパインMC
グリンガードNEO
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート
与作シート（茶・白）
（折りたたみ式 専用キャリーバック使用）

竹・ササの防除に
クロレートS粒剤

アメシロなどの害虫防除殺虫剤
打ち込み上手

住化グリーン株式会社
本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町１番８号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423

効率良く快適に！手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

チッパシュレッダ

竹もOK！
SR3100
出力 18.4kW（質量1,330kg）
水冷ディーゼル
967634301
¥3,580,000(税抜)

ハンマナイフモア

ZHM1550
出力 27.5kW（質量1600kg）
967081901
¥5,860,000(税抜)

ZHM800
出力 7.4kW（質量230kg）
967088901
¥748,000(税抜)

ハスクバーナー・ゼノア㈱福島県代理店
㈲うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の１